

## **新しい風とともに**

### **(1) 2030年～問題**

団塊の世代が、ベビーブームに生まれたということは、死去も団塊になることが予見されます。少子化に伴って、施設やケア体制をどう整えて社会が対応していくかが大きな問題となってきます。先を見据えて今から着手する必要があります。

### **(2) 葬儀とお墓問題**

少子高齢化や個々の価値観の多様化に伴い、ハード面（施設）、ソフト面（手法）そして精神面（心や気持ち）においてもケアや供養の仕方は変わってきています。

そのひとつが葬儀の形式とお墓の問題です。過疎化（限界集落等）によって、葬儀ですら地域で行えない事態の発生（人手の減少や寺社の荒廃）。一方で、都市化や生活様式の変化に伴う意識の変化や葬儀の在り方の多様化。例えば、お墓のマンション化＝寺院ビルの中にお墓の集合躯体（小さな金属製の箱）があって、管理室で操作ボタンを押すと、〇〇家の箱（墓）が昇降機によって、参拝者の目の前に運ばれお墓参りできる。参拝場所にはLEDがピカピカ点滅し音楽が流れている。死の医療化、管理化に続く、浄土の管理化です。

### **(3) 脱・葬式宗教化**

ストレス社会、震災問題などを通して、宗教の果たす役割が見直されてきています。それは、心の拠所としての寺院や教会、神社のあり方や活動です。

### **(4) 新しい風**

グリーフケア（喪失悲嘆ケア）という新しい言葉に、新しい風が吹き始めていることを感じます。

この分野自体が研究途上にあるのでしょうし、社会の変化に伴って常に変わっていく面と時代に関係なく変わらない面があると思います。